

平成29年度認定 (No.80)

農業名人

アルストロメリア栽培名人 ふるはた 古畑 ためゆき 為雪

昭和21年生まれ 箕輪町在住

「ひとつひとつを丁寧に心を込めて」



昭和54年、箕輪町農業協同組合と名古屋の種苗会社が試験的にアルストロメリアを導入。自宅のある一の宮地区は、冷涼・乾燥・とりわけ雨が少なく日照時間が長い気候条件は、病気になる割合が低く花の栽培に適していることから、JA指導員から声をかけられ、両親がハウス1棟分面積10aから花卉栽培を始める。当時は、自衛隊員として転勤を繰り返す日々であったが、子どもの小学校入学を機に自衛隊を退職。高齢となった両親に代わり、アルストロメリア一本に絞り妻とともに取り組み始める。

当初5品種から始めた栽培も現在9品種へ拡大。ハウスも少しずつ拡大し自宅周辺とそれ以外の場所を合わせて5棟を所有し、10aから始めた面積も現在は35aとなり今の栽培規模を確立し花卉専職として勢力的に行っている。ハウスの管理は機械に頼らず全て手動で行う。台風や大雪の時は手間がかかるが、自分で育てている実感があるのがいいと言う。

また、涼しい気候を利用し、ハウス内の土壌は冷やすことをせず、その土壌に合った品種を栽培。栽培本数は年間35万本におよび積極的に新品種の導入にも取り組んでいる。

平成18年からは息子さんも加わり、技術や知識を伝えながら「頼もしい存在になりつつある。」と語る顔には、将来の後継者としての期待が込められている。

農業委員としても2期6年務め、農業振興に尽力し、地域のまとめ役を担っている。一方で、大型コンバインオペレーターとしての顔を持ち、操縦技術は農事組合法人でも群を抜き、効率よく安全に作業を進める技術を持つ。

平成6年「長野県知事賞」受賞
平成7年「関東農政局長賞」受賞
平成24年「農林水産大臣賞」受賞
ほか多数受賞

